



令和7年度 高等部 作業学習の実践事例

題材名：担当した作業を続けてしたり、でき具合を見直したりしながら、決めた仕方で分担した作業を進め、注文を受けたトートバッグを作ろう

授業者:半田 郷子

作業種目と教材を通して指導すること

本実践で取り上げたトートバッグは生徒の身の回りにもあり、作った製品を家庭で利用できるなど身近なものである。また、長さや織り目などの規格も決めやすく同じ手順を繰り返してできる作業が多いため、規格通りの製品を作るという確実な作業の指導に適している。

また、本実践では、教職員など身近な人からの注文を受けることにより、生徒が作業に取り組む目的やよい製品を作る必要性を感じ、自分から作業に取り組んだり、続けたりする態度、規格通りの製品を作るために決めた仕方で作業に取り組むこと、規格通りになっているかを見直しながら作業を進めたりすることなどが育てられると考えた。

中心となる内容の学習指導要領の段階と内容		職業・家庭科 中学部1段階 〔職業分野〕 A 職業生活 イ職業	配慮的な内容の学習指導要領の段階と内容	数学科(算数科 小学部2段階 A 数と計算)
知・技	：イ(イ)㊦	作業課題が分かり、使用する道具等の扱い方に慣れること。	知・技	：ア(ア)㊦ 個数を正しく数えたり書き表したりすること。
思・判・表	：(イ)㊦	職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について気付くこと。		
学 び	：ウ	将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする態度を養う。		

題材目標


知・技	裁断の作業をする時、決まった仕方と自分の作業量がわかり、自分から次の材料を取りに行き、決まった仕方でも7個分の材料がなくなるまで裁断の作業に続けて取り組む
思・判・表	自分が担当する作業に取り組む時、自分から次の材料を取りに行き、決まった仕方でも10個分の材料がなくなるまで、裁断の作業に続けて取り組む
学 び	毎回の作業ですべての材料がなくなるまで、決まった仕方でも作業する
配 慮	教師が提示した数字分の製品をそろえる

授業評価

知・技	PPバンドをクリップ型マグネットの端に合わせる、PPバンドを谷型受けの印に合わせる、はさみを印に合わせてPPバンドを切るなど、決まった仕方でも作業を進め、自分から次の材料を取りに行き、かご7個分の材料がなくなるまで作業に取り組むことができた。
思・判・表	かごの材料がなくなる度に次の材料の入ったかごを取りに行き、かご10個分の材料がなくなるまで作業を続けることができた。
主 体	決まった仕方でも、かご10個分の材料がなくなるまで作業を続ける姿が、題材後半の数回の作業で見られた。
配 慮	数字をカードで示すと、数字分の製品をそろえられることもあるが、そろえた製品の数が多かったり少なかったりすることもあった。


確実な作業をするための生徒の実態に応じた治具の工夫

ポイント




＜クリップ型マグネット＞

マグネットの端を固定する。指先を使わなくても固定でき、透明になっていることで奥まで入っているか確認できる。



＜はさみを合わせる印＞

赤い位置にバンドを合わせ、板の間にはさみの刃を入れて裁断する。板の間にはさみを入れることで、切る位置がずれない。



＜谷型受け＞


重しをつけて、谷型受けの赤い印に合わせる。バンドがたわまらずに、まっすぐ設置することができる。

見通しをもって工程に取り組むための場面設定や作業量の示し方の工夫


ポイント

(場面設定・働きかけ)


作業の流れをわかりやすくするために、一方向に向かって作業を進められる配置にした。また、はじめは教師が指さしをして次の活動とその位置を伝えるようにして、徐々に自分で取り組むようにした。



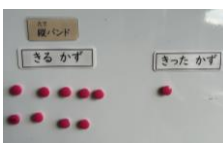
③切り終わった材料かごは、棚の上に置く



②切ったものは、裁断台すぐ横のコンテナへ入れる



①クリップ型マグネットの方向へ引っ張って取る



④かご1個分の裁断が終わったら、マグネットを「きったかず」にはる

考察


＜姿の変容＞

題材開始時は、座り込むなどして作業に取り組まないこともあったが、題材後半では一人で次々と取り組む姿が見られるようになった。

＜姿が変わった大きな理由＞

①作業の流れや量を視覚的に示したことで、見通しがもてた。

②一つ一つの作業を簡単な操作でできるようにしたり、できたタイミングで認めたりすることで、達成感を感じられる経験を積み上げることができた。



全部のかごのテープを一人で切ることができたね!

この前よりも、〇本多く切ることができたね!

現場実習など他の場面でも同様に実践して、作業に取り組む態度を育てる指導をしていきたい。